

僕は野球観戦が大好きです。僕は福岡に住んでいますが、一番好きな球団はもちろん阪神タイガース。兵庫県西宮市で育ったお母さんに影響されまくり、気付いたら六甲おろしが歌える子どもに育っていました。六甲おろしとは、阪神タイガースの応援歌の事です。

だから、もちろん、一番好きな球場は、阪神甲子園球場です。

もう2回、訪れたことがあります。球場内に入った途端、その広さ、天然の芝生、タイガースのユニフォームのファン とにかく最高です。

試合前の球場内のツアーもしたことがあります。少しは球場について知っていますが、今回あらためて阪神甲子園球場について調べました。

阪神甲子園球場は、阪神電車の重要人物 1867生まれの 三崎省三(みさきせいぞう)さんのおかげで建てられました。

高校野球のために作られた球場だと言っても過言ではありません。

19歳でアメリカへ渡り、若いうちからアメリカのベースボールの魅力を知っていた三崎さんの『野球を通して日本の若者たちを育てていきたい』という熱い思いが1924年に阪神甲子園球場が生まれた理由です。

「甲子園」の名前は、1924年が中国のカレンダーで、十二支(じゅうにし)それぞれの始まりで、縁起が良い「甲(きのえ)」、「子(ね)」にあたることに由来します。

甲子園球場には、最大約47,000人(内野には28,000人 外野19,000人)入れます。レフトの外野席の上に、ビジター席が少しあり、対戦相手のチームのファンが少し座れます。毎年、3月までにほとんどの席が完売します。

阪神甲子園球場の特徴は、外野席と内野席は繋がっていません。

セキュリティーの人が間に立っていて、売店も別にあります。

外野の人は暴れん坊の人が多いので、外野の閉じ込めておく作戦なんだと思います。特に外野のライトには、有名な応援団がいます。初めて阪神戦に行く人はこの席のチケットをうっかり買わないようにしてください。

阪神甲子園球場には、アルプスタンドという席のエリアがあります。この「アルプスタンド」という名前は、実は、有名な岡本太郎さんが子供の時につけた名前だそうです。

阪神甲子園球場の大切なことの一つは、もちろん阪神園芸です。阪神園芸は土と芝生のことを知り尽くした職人の集まりです。高校野球、プロ野球、天気に合わせてグラウンド作りをいつもしています。雨が降ってもあまり中止にならないのは、この人達のおかげです。甲子園球場で野球が出来るのは、

この職人さんのおかげです。
黒土と淡路島の赤土、白い砂が
使われています。芝生も一年中緑になるように
夏芝と冬芝と2回植え替えています。

甲子園球場といえば、もちろんかちわり氷です。
このかちわり氷、六甲山の地下水をくみ上げ、
2日間かけて、ゆっくり凍らせているので、
水に溶け込んだ空気が抜け、固く溶けにくい氷
なのです。

夏の甲子園のスタンドに足をはこぶとその暑さ
のために、ただの水を凍らせてただけの
かちわり氷のおいしさがとてもよくわかる
ふしぎな名物なのです。

阪神甲子園球場で必ず食べないと行けないもの
が3つあります。

まずは、甲子園カレー これとはとにかく美味しい！
毎回食べます。

2つ目は、甲子園ジャンボ焼き鳥。
コレも買わないとだめです。うますぎます。

最後は甲子園焼きそばです。
この3つは大切なことなので覚えておいてください。



次に大切なことは、雨が降りそうな日のマナーです。



まず必ず雨ガッパを購入して持って行ってください。もしシートがすでに雨で濡れていても、他の球場のようにスタッフの人がふきには来てくれません。勇気を持って、ズボンのまま座り、自分のズボンで雨水をふく、これが甲子園のやり方です。

帰りに雨ガッパを着たままうっかり阪神電車に乗ると、とても怖い目にあいます。初対面の人から「お前、早くかっぱ脱げや、周りの人がぬれるやろ！ 駅の放送 聞いてなかったんか」と、信じられないほどの大声で、複数の大人に同時に車内でめちゃくちゃ怒鳴られます。僕は二週間前にそれを目の前で目撃して、死ぬほど怖かったです。

阪神甲子園球場で行われる伝統の一戦 読売ジャイアンツとの試合では、試合終了後に喧嘩が起きても大丈夫なように、球場の外で警察や救急車が待っています。

外野に座っていると、試合中 必ず2回ぐらい パインアメ が上のお客さんから勝手に配られます。ヒットやホームランが出ると一緒に喜びます。巨人の選手に向かっては、信じられない悪口を叫びます。それも面白いです。

タイガースファンではなくても、人生で一度は甲子園球場へ行ってみてください。甲子園駅に降り立つと、緑のツタに覆われた美しい球場が見えます。

調べてみて阪神甲子園球場がもっと好きになりました。